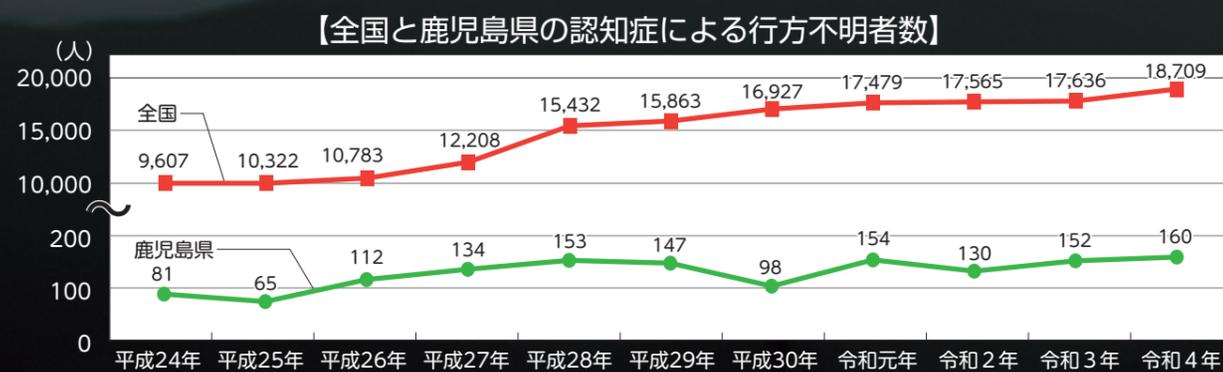


特集 家族が消える その前に



※1 令和5年1月1日現在
 ※2 令和5年1月1日現在

認知症による行方不明は事故やケガの危険性のほか、発見の遅れから溺死・低体温症により死亡して発見されることもあります。

認知症による行方不明は事故やケガの危険性のほか、発見の遅れから溺死・低体温症により死亡して発見されることもあります。

増え続ける
 認知症による行方不明者
 警視庁によると令和4年に全国で届出があった認知症による行方不明者は1万8708人で、過去最多となりました。認知症による行方不明者は年々増え続け、統計が始まった平成24年の9607人と令和4年を比較すると倍増に迫る増加となりました。

曾於市の65歳以上の高齢者は1万4279人^{※1}。そのうち介護保険制度の要介護認定をされ認知症のような症状を有している人は約16%の2298人^{※2}います。要介護認定がなく認知症の診断を受けている方を含めればもっと多くの方が認知症を発症していると考えられます。



認知症の母が行方不明になった

豊満 悦子 さん

地域とのつながりが 母の発見に

豊満悦子さんの母は認知症で今年の春に行方不明となりました。翌日には無事に発見されましたが、その時の経緯を話してくれました。

「認知症の母のため仕事が休みのたびに母の家へ行っていました」

いつも目を離さないように気を付け、夜中のトイレも見守っていたそう。また近所の人にも気にかけてもらえらるるように、自治会長を通じて母が認知症だということを地域の方々に伝えてもらっていました。

5月7日、その日は大雨の降る日でした。いつも母の手を引いて地域の体操教室に連れていくことが日常になっていましたが、母が体操教室に行くことを嫌がり大雨も降っていたのでこの日は体操教室を欠席しま

した。いつもは目を離さない豊満さんですが「雨の日に母一人で出歩くことはないだろう」と思いお昼過ぎに買い物に出かけました。

午後4時頃、買い物から帰っていると家にはいるはずの母が見当たりません。寝室・トイレなどを見ていない様子。そこで豊満さんは、はっとして「まさか一人で出ていったんじゃない」とあわてて家の近所を探し回りました。一時間ほど一人で探し回り、母が行きそうな知人宅に電話しても見つからず、午後5時頃自治会長に連絡しました。

すると自治会員の10数人がすぐに集まり家の周囲・田んぼ・山の探索が始まりました。それでも見つからず、日が落ち暗くなり始めたため警



曾於警察署
生活安全刑事課 生活安全係

庭田 勇輝 さん

「認知症の方が行方不明になったことに気が付いたら、いち早く警察署へ通報してください」

そう話すのは曾於警察署生活安全刑事課の庭田勇輝さん。まずは家族だけで探してからと、通報をためらわないでほしいそう。

「時間の経過とともに行動範囲が広くなり発見が困難になります」

警察のほかにも友人・知人や曾於市地域包括支援センターなどの普段から支援を受けている関係機関にも連絡し、人の目を増やしてより多くの人の協力をもらい早期に捜索を開始することが重要です。

行方不明者届を出すときは事前に電話をしてから警察署に行くことよりスムーズに対応してもらえます。「事前に電話をもらうことで、持つて

察に行方不明者届を出すことに。行方不明者届を提出し警察署から戻ると、家じゅうの明かりをつけて母の帰りを待ちました。いつもと変わらなず体操教室に連れて行っていたら、目を離さず見ていたらと悔やみ、ついには最悪の事態まで考えました。早く無事に見つかってほしいと仏壇の前で手を合わせ、一睡もできない夜を過ごしました。

5月8日、朝7時から再び自治会員・親せき・友人による捜索が始まります。その午前中に「都城方向に歩いていく人を見かけた」との目撃証言が入ってきました。目撃証言をしてくれた人は都城市民で、行方不明の話聞いて目撃した状況を伝えに来てくれたのです。

また豊満さんが母と一緒に出掛けて帰ってきたときに自宅のことを「これは私の家じゃないような気がする」といって都城方面を指差していたことがありました。

目撃証言とその時の母の言動から都城方面の捜索が始まると、そのお昼過ぎに都城市安久町の空き家まで横たわっている姿が発見されました。

「見つかった時の母は、顔面があざで青く腫れあがり全身打撲を負い、現状が分かっただけで意味不明なこ

行方不明者の発見は 時間との勝負 ためらわずに通報を

来てほしい物などを伝えることができます。特に直近の顔写真があると捜索に役立てることができます」

行方不明者届を受理する時は氏名や身体の特徴だけでなく、行きたがっていた場所・やりたがっていたことなど普段の言動も聞いているそう。

「よく発見される場所は自宅敷地や自宅周辺の山林・空き家・川など。そのほかにも所有する田・畑・墓など行方不明者にゆかりのある場所で見つかることが多いです」

また様子がおかしい高齢者を見かけたときは声をかけてほしいと呼びかけます。

「その人が事故に遭いそうと感じたら遠慮なく通報してください」
あなたの声かけが行方不明者の発見やケガ・事故の防止につながります。

認知症の行方不明に気づいたら
いち早く警察に通報してください。

■曾於警察署
☎ 099-482-0110
■110番通報

※電話をしてから警察署へ行くとよりスムーズに届出ができます。

早期発見のためどんな些細なこと
でも教えてください。

- ・住所 ・氏名 ・生年月日
- ・身長 ・体重 ・体格
- ・病気やケガの有無
- ・行方不明になる直前の着衣
- ・本人と家族の連絡先
- ・部屋から無くなっている所持金や所持品
- ・車のナンバー
- ・直近の写真
- ・服や足のサイズ
- ・よく着ている服装
- ・つえの使用の有無
- ・行きたがっていた場所
- ・やりたがっていたこと など

とを話すせん妄状態でした」
それでも無事に見つかってよかったと話す豊満さん。母は病院に入院後、現在は介護老人保健施設に入所しています。
当時を振り返って豊満さんは①地域の人のあらかじめ認知症であることを知らせる、②地域の人の捜索が開始されたこと、③地域の人のつながりがなく、孤立していたら見つからなかったと思います」
豊満さんは母を介護するためこの夏に仕事を退職。9月に介護老人保健施設を退所する予定の母を迎える準備をしています。
「母が帰ってきたら、日中はデイサービスを活用し、余裕を持って介護できるようにしたいと思っています。これからは母との時間を大切にしていきたいです」
庭に新しいテーブルとイスを購入し母との食事やお茶を楽しみにして、これから過ごす母との時間に胸を膨らませている。



認知症サポーターとして活動する

松下 淳子 さん

私はもともと介護老人保健施設で働いていましたが、定年退職してから認知症サポーター養成講座を受講しました。認知症サポーターは認知症の正しい知識を学び、認知症の方やその家族にできる範囲で手助けをする人のことで

認知症は怖くない病気 包み隠さずオープンにして 地域とつながることが大事

す。1時間30分の講座で病気のことや認知症の方との接し方などを学びました。

認知症サポーターになってからは認知症の方とその家族が集う「ほっとカフェ」の立ち上げに携わりました。初めは手探りでしたが今では認知症の方も、介護をする方も本音で語り合っており、日ごろのうっづんを晴らせる場にもなっています。

今後は認知症のことを他人に言えなくてもやもやしている人を支

えてあげたいと思っています。家族が認めたがらないケースもありますが、早目の治療で認知症の進行を抑えられている人もいます。

認知症は怖くない病気。包み隠さずオープンにして地域でつながることが大事です。地域の人も認知症と知っていたら手助けしてくれます。

認知症で悩んでいる人はぜひ「ほっとカフェ」に参加してみてください。私も誰かのためになることで元気になります。



大隅北校区社会福祉協議会長

牧元 宝治 さん

令和4年度おりた自治会長

伊地知 哲也 さん

折田・北・佐敷地区担当民生委員

桑原 玲子 さん

相手の様子を見ながら

自分のことも

信頼してもらえるように話す

声かけのポイント

- ・やさしい口調で
- ・余裕をもって対応する
- ・おだやかに、はっきりした口調で
- ・相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応
- ・後ろから声をかけない

認知症で迷い歩きをする高齢者役への声かけ体験を実施

※ほっとカフェは市内5カ所で開催されています。福祉介護課 ☎ 0986-76-8807までお問い合わせください。

曾於市地域包括支援センターは高齢者の方々が住み慣れた地域で、安心して生活できるように支援を行っています。センターの業務のひとつに『総合相談』があります。高齢者やその家族からの相談に幅広く対応し、必要な支援を行ったり、専門機関につなぐ業務です。介護をする人はつい頑張ってしまうことがあります。家族だけで頑張る必要はありません。早い段階で相談してください。電話や来所での相談だけではなく、状況に応じて職員がご自宅を訪問して相談することもできます。

早い段階で相談を 頑張る必要はない 家族だけで介護を



曾於市地域包括支援センター長 坂元 直美 さん

大隅町のおりた自治会は令和4年11月に「おりた見守り支援講座」を開催しました。約50世帯中20名以上が参加。内容は認知症サポーター養成講座を受講した直後に、認知症で迷い歩きをする高齢者役に声かけ体験をするものでした。

講座を行った理由は
自治会内に認知症で迷い歩きをする可能性のある方がいて、実際にそうなったときの対策として講座を開きました。

声かけ体験の内容は
体操教室に來なかつた認知症の方を探すという設定で、本人は買い物に行くと思っけています。その方に対し、たまたま見かけた顔見知りの関係・あいさつする程度の関係・よく知っている関係の3つのパターンで声かけ体験をしました。

感じたことは
家に帰ろうと伝えても、なかなか本人の行動を変えることができず大変でした。どんな言葉で伝えるのがよいか考えながら声をかけました。

講座から得られたこと
相手と同じ目線になって認知症の程度を確認しながら話すこと、そして自分のことを信頼してもらうことも大切だと感じました。その人と行動を共にしながら、電話で応援を呼ぶと良いと分かりました。

大切な家族をまもるために…

- ① 早めに相談
- ② 認知症であることを地域に知らせておく

相談窓口・お問い合わせ

曾於市地域包括支援センター
末吉町二之方 2342 番地 2 (そお生きいき健康センター内)
月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
☎ 0986-76-8824

福祉介護課 地域・高齢者支援係
☎ 0986-76-8807

